

令和6年度宍粟市立幼稚園・保育所・こども園園所関係者評価報告書

学校園名	まあるこども園	評価委員名	和田光弘城下小学校校長・堀田宇多子民生児童委員 綾部亜沙子・梶本理恵保護者代表
------	---------	-------	--

1 本年度の経営方針

理 念	自信を持って自分を発揮できる子どもに育てる。
教育・保育目標	「元気な子ども・伸び伸びと夢中になって遊ぶ子ども・自分も友達も大切に出来る子ども」
教 育 方 針	伸び伸びと意欲的に遊ぶ中で生きる基礎を培う。 ・安全で安心な環境の下、基本的な生活習慣の確立を目指します。 ・園児一人ひとりの発達や特性に応じた教育・保育を一体的にしていきます。 ・豊かな自然や地域の人との関わりを通じて、健やかな心身豊かな感性を育てていきます。 ・地域・家庭と連携し、すべての子育て家庭への支援に取り組みます。

2 本年度の重点目標

本年度の目標	新しい園舎や環境に慣れ親しみ伸び伸び遊ぶ。 ① 基本的な生活習慣の確立と元気な心身づくり。② 遊びに夢中になれる安定した心と遊びの広がり。 ② 地域の中で0歳から6歳までの教育・保育を一体的に行う。
--------	---

3 自己評価結果（A~D） A：達成 B：ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観 点 (重点目標)	評 価 項 目（園所・教師・保育士・保育教諭の取組）		評価資料	達成状況		改善の方策
	評 価 指 標 及び目標値（期待される姿）					
① 身 づ くり の 確 立 と 元 気 な 心	項目	身体を動かせる、心を動かせる遊びの環境構成	げんきっこカード 指導案 アンケート調査票	B	A	・各年齢の発達段階を踏まえた計画を立て教育・保育に取り組んだが、振り返りが十分ではなかった。全員参加する話し合いが難しく、クラスごとの伝達方法や保育観の相違等により、捉え方の違いも見られた。会議の持ち方、伝達方法を工夫したい。 ・げんきっこカードの早寝早起き・朝ご飯の習慣を、家庭と共に指導してきたことが良い習慣となった。 ・特別な支援を要する園児の長期・短期計画を立て、過ごしやすい環境を整えることが出来た。
	指標	・年齢や発達段階に応じた環境構成になっているか ・感動体験を取り入れた保育内容になっているか 達成度A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満				
	項目	生活リズムの把握に努め個々に応じた生活環境を整える	げんきっこカード 指導案 特別支援計画 職員自己評価			
	指標	・年齢や特別支援を必要とする園児に応じた生活環境を家庭と連携して整えられたか 達成度 A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D60％未満				
② 広 が り 安 定 し た 心 と 遊 び の な れ る	項目	園児の興味関心を活かし、人との関わりや自然を取り入れた遊びの環境構成	指導案 会議録 アンケート調査票 職員自己評価	B	B	・講師招聘研修会を実施し、環境を整えることや園児への関わり方を改善することが出来た。又しそ教育支援委員会に参加し、委員の助言や公立・民間園所の意見を聞くことが出来、保育環境を整え教育・保育に活かしていく幼児教育の視点が明確になった。 ・地域の様々な方にお世話になりながら、木工教室・人権学習・収穫体験等自然を取り入れた活動を行うことが出来た。 ・園内外の研修に積極的に参加し、教育・保育に活かした。
	指標	・園児が友達の中で主体的に遊べているか ・園児の興味関心ある遊びや発達段階に応じた遊びになっていたか 達成度A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D60％未満				
	項目	保育 教育の目標やねらいが園全体のものとして考えられている	指導案 会議録 職員自己評価	B		
	指標	・園内外の研修に参加し向上できたか ・指導計画の作成 評価 反省が活かされたか 達成度A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D60％未満				
③ の 保 育 ・ 教 育 を 一 体 的 に 行 う	項目	地域の自然、飼育物・栽培を通じ、命を育む取り組をしている	指導案 会議録 職員自己評価 園自己評価	A	A	・畑や田んぼで収穫体験や合鴨農法に参加させて頂いたり、山や川遊びに出かけたり地域ならではの体験が多く出来た。保育教諭が地域の遊び場をもっと深く知っておくべきだった。 ・専門機関との共有は出来たが就学する学校の数が多く連携は難しかった。宍粟市共通の取組が出来るよう支部にも相談したい。 ・身近な小動物の飼育や夏野菜の栽培などに取り組み、成功したり失敗したりする中で命の大切さや育てる楽しさを感じる体験が出来た。その体験をどう活かしていくかが課題となった。 ・年間を通じ、子育て広場に遊びに来てくれた子とよく遊べた。
	指標	・地域の良さや人との関わりを取り入れた保育になっているか ・飼育・栽培など育てているものを大切にする 達成度 A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D60％未満				
	項目	小学校や他の教育機関、専門機関と連携を図り一人一人に応じた保育・教育につなげる	指導計画 要録 特別支援計画 アンケート	A		
	指標	・年齢に応じた指導計画の作成と評価、反省が活かしているか ・教育機関・専門機関とつながる努力が出来たか 達成度A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D60％未満				
	項目	地域の人や異年齢の友だちとの交流活動	園自己評価 アンケート	B		
	指標	・地域での活動や伝承などに触れる機会を持ったり子育て広場の友達と遊んだりする機会が持てたか 達成度A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D60％未満				

自己評価における特記事項

- ・こども園の理念・乳幼児期の教育・保育の捉え方の視点や価値観が職員間で少し違うように思った。伝達の方法や会議の持ち方等工夫することで改善できるところもあるので、次年度へ繋げたい。
- ・本年度の重点目標が明確になるような自己評価表になるよう、園の自己評価表の見直しを毎年行うことが必要だと思った。

総合的な園所関係者評価

- ・今自園でしている乳幼児期の教育はこれで良いのか自問自答していることを訴えた。
- ・自動車を生産する 3 社を例えに出されながら同じ車種を育てるように大切にしている 1 社の運営方法と教育を重ね合わせながら話し頂いた。教育も評価を活かしたり実践を積み重ねたりするパターンがあると思うが、同じことを繰り返すことが大切で時々新しいものを取り入れる感覚が必要だと思う。乳幼児期の教育も失敗したり成功したりを繰り返しながら学びに繋げ新しいもの(環境)を取り入れ学びに向かう力を育てることだと思う。
- ・改善の方策を読み評価が誠実にされている様に感じた。今後も続けて行ってもらえればと思う。
- ・今の時代はスピードや鋭さも必要とするが乳幼児期にはやわらかさを是非身に付けてやって欲しい。
- ・運動会のかけっこの場面で1、2番を競っていた2人のうち1人の園児が転んでしまった。1番で走っていた子が立ち止まり起き上がるのを待っていた姿を見た時、涙が出そうになった。殺伐とした今、心が温かくなりこども園での普段の教育・保育が見えたような気がした。
- ・今後も体験を大事にした教育・保育を続けて頂きたい。
- ・目標が大きく達成出来てない評価なので、達成しやすい短期目標を具体的に書かれてもいいのではないか。

園所関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	・職員の数が多いので会議だけでは、コミュニケーションがとりにくいと思う ・大切なことは会議で話し合うようにしているが、ちょっとした連絡や報告は誰でも使えるチャットで伝言板のように使っている。個人情報扱いやグループから退会する時には責任をもって見届けるようにしている。他の学校も使われている所は多いと思うので、こんな方法がある事を伝えておきます。 ・連絡、報告、保育の計画、職員間の共有に ICT の活用を強化し、コミュニケーション力を高め園全体の質の向上に努めたい。
◎	◎	・教育目標（ねらい）を立て実践に繋ぎ続けることは難しいと思う、小学校ではスローガンのように、様々な場面(運動会、学習発表会等)で目標を書いたり、盛り込んだりしながら伝え続けるようにしている。園でも重点目標を意識して伝え続けるような工夫をしていきたい。 ・評価（園、個人の自己評価）が厳しいと思うが、厳しいくらいの方が質の向上に繋がり良いと思う。 ・長期目標が少し難しかったのではないかと、達成できるような目標になるよう、短期目標を立てる等見直してはどうか。
◎	◎	・乳幼児期は体験することが大切で、記憶に残れば最高だと思う。 ・子どもの頃の体験（好きや興味）が今後の教育に繋がるのだと思う。 乳幼児期は「かわいいな」「かわいそうだな」等の体験を積み重ねることが大切であると思う。子どもが幼かったころ幼稚園に咲いていたサルビアの蜜を吸って遊んだ思い出など忘れられないと大人になった今でも話してくれる。 ・園で育てていたカナヘビが死んでしまったことを、曾祖父母の死別と重ね合わせ、もう会えないんだと辛い気持ちを母親に訴えてきた。等、乳幼児期の様々な体験がその後の豊かな生活へと繋がることが分かった。 ・園児が分からない事や調べたいことについて詳しく調べられる環境はあった方が良いと思う。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・学校教育と乳幼児教育の違いを探り、小学校のことを知り、伝えたい事や知っておいてもらいたいこと等整理して 架け橋プログラムへ繋いでいきたい。
- ・職員が地域の事や地域の方々のことを知り、園児と共に地域に親しみが持てるように関わっていききたい。